

性暴力被害者支援看護職 (SANE) 養成プログラム 2019 (報告)

受講者 : 34 名

修了者 : 31 名

— 受講生からの評価を一部抜粋して掲載しております —

- ・今まで被害者に共感的に関わることが最も大切だと思っていたが、支援者が巻き込まれてしまうことも考えなければならないという事がわかった。「ひとりではない」と口で伝えるだけではなく、被害者ができそうなことを一緒に考える、寄り添うという視点が大事だということを学んだ。
- ・私たちは他人や自分の「できなかった事」に着目しがちだが、今回の講義を受けた事で、「少しでもできた事」、「行動した」という事実、に目を向けることが大切だということも学んだ。被害者をサポートしていくには、どうしてその行動をするのかや、脳のしくみなど、知識を得た上で関わっていく事が重要であるという感想を持った。
- ・医学的証拠採取、記録、法医学的写真撮影について：証拠採取の写真撮影のポイント（スケールを入れること、損傷場所が分かるように少し引いて撮影する。損傷の詳細が分かるように近接して撮影する）や、写真撮影の悪い例、デジタルファイルでの保存など学校での対応にも活用したいと感じた。
- ・司法面接に関与することは少ないですが、RIFCR*の知識を得た上で慎重に対応していきたい。今研修を実践で生かしていけるように、行動に移していきたいと思います。（*RIFCR：性虐待だけでなく、身体的虐待やネグレクト、いじめなどにもご活用いただける面接技法）
- ・私たちに出来る事、寄り添うこと、傾聴共感すること、その後の生活の援助ができる支援へ結びつける。安心できる場所の提供、私たちとの関わりで少しでも信頼関係を築くこと、を地道に行っていきたいと思います。
- ・実際の警察の役割を知ることができました。警察が関わることで公費負担を含めた被害者支援があることがわかり、警察への相談を迷っている被害者への情報提供に役立てることができそうです。
- ・傷の見方は興味深かったです。救外で働くこともあるため、虐待を疑うポイントは大変参考になりました。傷を正しく記録するだけでなく、診察内容を理解することで安心して診察が受けられるよう援助できることにつながると感じました。
- ・アタッチメント、トラウマ、DID（*）について学ぶことが出来た。今後さらに知識を深める中で、頂いた資料を基に現場のスタッフへまず講義し、伝えていきたい。（*DID：解離性同一性障害）

性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム 2020（報告）

受講者：30名

修了者：28名

— 受講生からの評価を一部抜粋して掲載しております —

- ・最終段階で行ったロールプレイはとても実践的でこれまで学んだことを総括すること、また実際に支援を行ううえでの注意事項の再確認などができとても良かった。
- ・専門の方々が講師であり、幅広く様々なことを学びました。グループワーク、ロールプレイを通して実践も経験することができました。
- ・全ての講師の先生、プログラム作成に携わった方々、ロールプレイで貴重なアドバイスをくださったSANEの方々、スタッフの方々ありがとうございます。まさに“魂の講義”を受講できた事に感謝と責任を感じております。
- ・一緒に学んだ仲間が多くいることに勇気づけられ、ネットワークができれば、県内全体の支援体制も強化できると思います。ありがとうございました。
- ・支援方法は毎年見直されていると知るきっかけとなりました。情報化の時代で適切な情報を得る力も必要だと感じています。
- ・どの講師の方も熱意があり、心が動かされました。こんな経験をした研修は初めてです。
- ・今回、養成プログラムを受講して本当に良かった。全体像が見えたこと、その中での各々の役割が理解できたこと、これらは自身の「力」になると実感しました。先輩の働きはとても勇気を与えてもらいました。皆さんの人間的な力がやはり、人を動かす力なのだと確信もできました。ありがとうございました。
- ・フォレンジック看護の概要を学び、性被害者支援看護師としての役割の大きさを自覚した。また、本院が病院直結型のモデル病院であったことを知り、この巡りあわせにもっとも驚きをかくせなかった。自分の使命であると感じた。
- ・とても勉強になる事が多く、ぜひ活かしたいと思う。今後、自分自身も勉強しなければならない。また、SANEのスタッフがこれからも増え、仲間が増えるといいと思う。
- ・警察・弁護士・検察官など様々な専門職種の方々ですが、性被害の方への理解と心ある支援がそれぞれに行われている事を学び、私自身がSANEの一員として安心して連携が行えるように思えた事は、今後の自身の活動の中で大きな収穫になりました。演習を通して、実践の難しさと協働の必要性を実感できた事は、大変学びが深まりました。

性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム 2021（報告）

受講者：34名

修了者：33名

— 受講生からの評価を一部抜粋して掲載しております —

- ・講義全体を通して、初日から今まで自分が深く関わってこなかった分野でもあるため、とても興味深い内容で勉強になりました。
- ・アタッチメントはただ愛情を注ぐ、愛情が足りていないということだと思っていたので、生存していくために必要なニーズであるということを理解できました。
- ・法律によるさまざまな規定を学ぶことができ「このような場合、法律ではどのように判断をされるんだろう」と思っていたケースが、実際にどのように判断されるのかを知ることができて良かったです。
- ・フォレンジック看護の倫理では、実際に事例検討を考えてみて、今後遭遇するであろう自分の考えや、介入すべき課題が多く、難しいことを体験することができました。
- ・幼少期からの正しい性教育を受けていることで自らの身体を大切にすることにつながる。妊娠出産さらに子育てへの影響も大きいことを実感しました。性教育の必要性がもっと理解され、子どもたちが正しい知識を持てるように私も貢献出来たら・・・と思いました。
- ・子どもが虐待を打ち明けるプロセスがとても興味深かった。リフカーはとても奥が深く、実際に自分ができるようになるにはもっと勉強する必要があると感じた。
- ・入院中の子どもからの打ち明けや、預かり中の子どもからの打ち明けがあるかもしれないため、子どもに携わる看護師としてリフカーの活用は知っておく必要があると思いました。
- ・受刑者をはじめ、支援が行き届かない性暴力被害者の理解についての講義がとても興味深かった。高齢者や障害者など社会的な弱者が、だましやすい、いやと言わないという理由で性暴力を受けやすいという現実を知り愕然とした。障害者には、もともと自己肯定感が低く、被害を受けても仕方がないという深層心理があることも知った。また、被害を訴えることが出来ない為にその後の回復も困難であるという事を学んだ。
- ・障害をかかえる被害者への支援の講義をうけて、被害を受けた一瞬だけでなくその後長期的に関わる必要性や、障害有無に関わらず多職種を踏まえて支援に対する方向性を考えることの大切さを学ぶことができた。
- ・性の多様性理解についての講義はとてもわかりやすかったです。性の中にこんなにも色々な性がある事に驚き、その事で深い悩みを抱えてつらい思いをしている人がいる事を知りました。もっともっと世間が知るべき内容であると思いました。
- ・法医学の講義では、傷の見方について実際の臨床の場においても役に立つ知識でした。児童虐待についても私達が知識をもって関わる事により、発見につながる事もあるのだと改めて思いました。医学的な証拠採取や記録のちに被害者を救う事につながる事もわかり、改めて重要性を認識しました。
- ・子どもを性被害から守る、警察への届け出の意義と留意点についての講義を聞き、改めて幼少期から発達に合わせた性教育を継続していくことの重要性を学んだ。また、性暴力による傷の有無が、加害者の罪の軽重に影響するという事を知り、医療記録が重要であるという事を学んだ。

- ・多職種と協働する事、社会資源の活用について学び、改めて誰もが安心安全に暮らす権利を持っており、希望を持って生きていくことの大切さを実感した。SANE としての役割は、証拠の保全や被害者の精神的ケア、多職種連携と多岐に渡るが、ロールプレイを通し、安心安全な環境を提供し、被害者に寄り添い「あなたは何も悪くない。」「よく来てくれました。」と言動で表すことが最優先であると感じた。
- ・性被害者に対する理解を深め、支援にあたり取り組むべき課題がある事を学ばせていただきました。ここからのスタートとなりますが、できることが多くあると捉え、仲間を増やしながら頑張っていきたいと思います。
- ・フォレンジック看護について全く未知のところから開始しました。講義を聞き、これはいろんな人が真剣に取り組まなければならないし、病院全体にも広く周知しなければならないと実感しました。子どもへの対応は厳しい部分もありますが、少しずつ前に進んでいきたいです。

性暴力被害者支援看護職（SANE）養成プログラム 2022（報告）

受講者：46名

修了者：45名

— 受講生からの評価を一部抜粋して掲載しております —

- ・性教育の講義の中で、子供に本当のことを教えるという大切さについて学びました。なかなか口に出して性について伝えることは恥ずかしさもあることだと思いますが、講師の先生のお話を聞いて医療従事者として見本にしたいと思いました。
- ・障がい者や性的マイノリティーや受刑者の人たちの人権や性についての講義はとても学びが深かったです。自分がこのような人達の理解がないことが、差別や、支援のトリアージを決めてしまっているのかなと深く反省しました。とても良い機会でした。またこれからも学び続けたいと思いました
- ・にわかにならなっているつもりだった LGBTQ だが、今回の講義で理解してないと思った。性の4つの要素に分けて考えられたのが良かった。この講義を聞いて確かに男性と女性と二つの区分に分けるのは難しいことだと思った。病院勤務助産師なので院内の指導にとどまっているが、SANE 研修を受けて若者の生と性を考えて性教育に取り組まなければならないと思った。
- ・現場ですぐに生かせるヒントがたくさんあり、今日の講義を復習して実践で生かしていきたいです。
- ・どの先生もそうですが、先生方の熱意に触れさせていただき、より自分の出来ることを行動化していきたいと思わせてもらえています。
- ・法医学の授業がとてもリアルで興味深かった。知らないところで、暴力で死亡している人や、性被害にあっている子供がたくさんいる現実を知り少しでも気づけるようにアンテナを張ってするどく観察する力や、周囲にも伝えられるようになりたいと思う。また、証拠採取の時の注意事項や被害者への声のかけ方などチャートがとてもわかりやすかった。
- ・子どもを性被害から守るの講師の方の具体的に実行されてこられた支援に感銘を受けた。支援の実際にて警察の方の講義は貴重だった
- ・アクションプラン発表では様々な取り組みを知ることができた。自分の発表においても発表後にアドバイスを頂き、今後に生かしていきたいと感じました。